

府中市生涯学習審議会（平成26年度第5回）会議録

1 日 時 平成26年10月27日（月）午後2時～4時

2 会 場 府中駅北第2庁舎 2階会議室

3 出席者

（1）委員13名（50音順）

石田和男委員、井上治男委員、大谷久知委員、川内清文委員、木内直美委員、
茂田嘉彦委員、設楽厚子委員、芝 喜久子委員、鈴木映子委員、
田野倉晴美委員、寺谷弘壬委員、三宅 昭委員、山内啓司委員

※小林 繁委員、澤井幸子委員は欠席

（2）職員6名

矢ヶ崎生涯学習スポーツ課長、目黒学習推進係長、桐生スポーツ推進係長、
大木事務職員、伊比事務職員、小田川事務職員

4 開会

5 連絡事項

（1）配布資料の確認

①社教情報 NO,71、 ②社教連会報 NO.75号、
③とうきょうの地域教育 NO,116、 ④スポーツに関する各種補助金の概要、
⑤悠学の会より「10周年記念誌」、 ⑥第5ブロック研修会 配布資料

（2）議事録の確認

第4回会議録（案）について、市民に公開することが了承された。

（3）都市社連協 第5ブロック研修会の報告

平成26年10月25日（土）午後2時～ 小金井市

[意見の趣旨] ■：委員 ➡：事務局

■ 今回は社会教育におけるNPOとの協働について話し合いが行われた。特に目立っていたのが青少年対策についてで、都市社連協の他ブロックでも進められているようだった。今までは居場所を含めて青少年対策については、話題に出てこなかったが、社会教育委員の仕事のひとつとして進めているということと、進めた方がいいのではという意見が出ていた。

施設については、青少年が自由に活動できるという点で、武蔵野市の「武蔵野プ

レイス」のような機能を取り入れているように感じた。

- 施設はしっかりした設備が整っていた。武蔵野市の「武蔵野プレイス」と似た形をしており、運営も良く似ていた。環境としては良いのだと思う。特に、中学生の居場所がないと言われており、教育も変革していくので、どのように対応していくのか考えておかないと大変だと思った。

- 貫井北センターは太陽光も存分に入っていて、とてもやわらかい感じの建物で、時間がゆったり流れている雰囲気を感じた。内部に仕切りがないので、子どもたちが思い思いのことを自由にしていたように見受けられた。勉強したり、トランプをしたり、飲食をしていたり、規制が少なく、こういうところが子どもたちにとって居心地が良い場所なのだと思う。また、図書館では中高生が興味を引くような雑誌の数が多かったり、誰もが自由に書くことができるノートがあり、それに何か書いておくと職員がコメントを書いたりしているようだった。そうすることで、大人とも意識を共有する部分が知らず知らずのうちに出てくるのではないかと思った。

分科会では中学生の居場所づくりについて話し合った。子どもたちは大人の干渉のない場所を好み、ルールに縛られるようなところには行きたくないと思っている。子どもたちのニーズに応えられるような場所、音楽やダンスのスタジオや演劇のホールなどは、子どもたちが気軽に集える場所なのだと思う。

調布市では中高生のための児童館があり、大人は入ることはできない。大人が利用できないことで、自然に高校生が中学生の勉強を見てあげたりしている。小金井市では中学生がボランティアをやると、ボランティアスタンプがもらえる。科学の祭典や野川の清掃等をしてスタンプをもらい、ボランティアに参加することによって自分を認めてもらったり、社会参加することで得られる充実感によって、帰るときの顔が生き生きしている。子どもたちが生き生きできる場所や方法なども考えられると良いと思う。

- 社会教育委員の市民参加というところで、皆さんは意外と現場に行ってみ学しているようだった。府中市には社会教育委員自体の勉強のシステムがないと思った。

青少年の居場所づくりということで、図書館にもコーナーが設けてあった。文化センターは時間になると帰らなければならないので、その場所を監視しながら見守る職員がいれば有効活用できるのではないか。

- 施設ができてまだ半年なので綺麗な建物だった。学習室等は狭いながらも工夫しているなどと思った。分科会では、青少年の居場所づくりについて、委員より出た意見には、中学生は自由を求めている、管理されるのを嫌がる。子どもはルールがある場所には来ない。大人の対応によっては二度と来なくなる。家庭の中でも居場所がなくなる時期というような現状があるようだ。また、挨拶や声掛けなど、大人か

らのアプローチが大事である。放任するのではなく、どこからか見られているという状況が必要である。大人に褒められたり、役に立つ場が必要である。きっかけ作りは大人の役目である。大人の働きかけが中学生にも必要であるという意見が出ていた。

- 青少年の居場所づくりということで、狛江市では中学生にアンケートをとり、その結果によると、あまりニーズがないようであった。子どもたちは目的を持って一生懸命頑張っていて、時間が足りなくなる程、自分で計画を立てながら時間を過ごすという姿が、中学生の生活の中に見えてきているようであった。

そして、どんな子どもたちの居場所が必要かを考えたところ、コンビニの前でたむろっている中学生であった。その子供たちがゆっくりできる場所があると良いが、やはりそこには大人の目が必要である。大人が考えてすぎて、豊かさばかりを出してしまうと、その弊害も出てくるのではないかという意見もあった。居場所は単なる居場所ではなく、精神的な拠り所も必要なのではないか。地域で青少年向けの催しがあったり、使える場所はあるが子どもたちは来ないので、その子どもたちにどのように情報を提供したら良いのか等について意見交換が行われた。

(4) 今後の研修会等について

- ①第45回関東甲信越静社会教育研究大会（神奈川大会）

平成26年11月20日（木）・21日（金）

- ②都市社連協 交流大会の開催について

平成26年11月29日（土）あきる野市

6 審議・協議事項

(1) スポーツに関する各補助金の概要について

生涯学習スポーツ課 スポーツ推進係より説明。

- ご説明ありがとうございました。今の説明を聞いて質問等はあるか。
- 「ジュニアスポーツ活動事業補助金」の競技別内訳について、その他のスポーツにはどのようなものがあるのか。
- ➡ ラグビー、ダンス、器械体操などが含まれている。
- ジュニアスポーツは中学生以下が対象なのか。
- ➡ 基本的には中学生以下である。
- 要望団体数と交付団体数がほとんど同じということは、金額をかなり下げて交付

しているのか。

- ➡ 団体から要望を出していただいた後に、市内部の補助金審査委員会にかけて予算が決定する。それに基づいて、生涯学習スポーツ課で各団体の補助金額を決定している。実際には要望額からするとかなり落とした金額で交付している。
- 予算額の推移を見ているとだんだん減っているが、予測しているのか。
- ➡ 毎年、財政課から出てくる基準に基づいて下げている。市全体として状況が変わらないので予測は難しい。
- 交付額は各団体の内容を個別に審査して決めているのか。
- ➡ ジュニアスポーツ活動事業補助金については、一律で5%減など同じ割合で減額している。

体育団体活動事業補助金については、前年度の実績などを基に、補助金の交付額が団体の経費の中でどのくらいの割合を占めているのか補助率を算出し、その補助率が団体間で近づくように調整して交付額を決定している。

- ありがとうございます。それでは了承したということによろしいか。
(一同了承)

(2) 答申案の検討について

- ➡ 事務局読み上げ。
- 「はじめに」について、ご意見をいただきたい。
- 1段落目「この答申は」は必要か。「教育委員会からの諮問「第2次府中市生涯学習推進計画の振り返りと今後の展開について」を受け、第2次府中市生涯学習推進計画の実施状況を精査した。実行が半ばである項目は検討し、再度実施を進めたい項目を審議したものである。」にしてはどうか。
- 主語は必要だと思う。
- 何か良い表現方法があれば、ご意見をいただきたい。
- 3行目「審議会が審議する」を「再度実施を進めたい項目を指摘したものである」にしてはどうか。
- 「はじめに」は全体的な目的が書かれていると思うが、3行目「実施を進めたい項目を審議した」とあるが、それだけではないと思う。これからの展望等も入ってくると思うので、全般的にこの計画を検討したというのを入れてもいいかと思う。
- 「再度実施を進めたい項目を検討した」ではどうか。
- 「検討」はその前に使っている。
- 「実行が半ばである項目、再度実施を進めたい項目を検討したものである。」で

はどうか。

- 実施されているものを検討して、実施されていないものを検討する、という文章であると思う。
- 「項目を挙げたものである。」ではどうか。
- 「言及したものである。」ではどうか。
- 2行目「計画（1期～3期）、第4期、第5期」は1年毎という意味か。
- 1期毎に諮問を出しているという意味である。第1～3期は計画に掲載されており、第4、5期は計画後に出したので掲載されていない。それを明確にするために並べたが、良い表現方法があればご意見いただきたい。
- 「(第1～3期)と第4期、第5期」
- 「第1～5期」はいかがか。
- 無い方が分かりやすい。
- ➔ 第1～3期はどちらかというところ、第2次計画というより第1次計画に対する答申なので、それを踏まえて織り込まれたものが第2次計画と考えていただきたい。計画に書いてあるものを見直したものが、第4、5期ということで2年毎に出していただいている。
- 入れなくても「過去の実施状況」等でまとめても良いと思う。
- どこから持ってきたのか聞かれたときに困ると思う。
- 「推進計画の実施状況」にして「第1～5期」は削除するか。
- ファシリテーターは第4、5期で実施してきた。
- 「第1期以降、第5期の答申に至るまで」としてはどうか。
- 実施状況を検討するのは、第6期で今やっていることも含まれていると思うので、第5期までではない。過去の答申を検討しているわけではない。
- 過去の答申の中身を振り返って検討すると思っていた。新しいことを改めて検討するとは言われていない。
- 今回の諮問というのは、生涯学習推進計画についての実施状況を振り返り、これからの展開について考えるものであり、今までの諮問を振り返るものではないと理解していたが、市はどのような理解か。
- ➔ 推進計画を振り返り、併せて今後の展開についても触れるよう言っていると思う。今後の展開について、第4、5期で答申された内容は、始まったばかりか、未実施のものばかりだと思うので、今後の展開に入れても良いと思う。今回検討していただいている第4、5期の答申内容を振り返るか否かは審議会委員の皆さんで決めていただければ良い。
- だいたい今までの答申内容を第6期でどうこう言うのもどうかと思う。

- 実施されているか検討するのは良いと思う。
- 「第1～5期」はなくても理解できると思う。
- 「第1期以降、第5期に至るまで」と入れてはどうか。
- 「生涯学習審議会答申（第1～5期）」ではどうか。
- ➔ 事務局で案を考えさせていただく。
- 「言及」ではニュアンスが違うと思う。
- 進めたい項目なので、「指摘」でも良いと思う。
- 10行目「期待する。」のあとは行変えする。11行目「必要となる。」に、12行目「改めて」は続けた方が良い。
- 5行目「いわゆる「ゆりかごから墓場まで」はいらなと思う。
- 「死ぬ」という言葉はあまり良くないので、「人が生まれてから一生涯に渡って行われる」にしてはどうか。
- 「「学び」そして「学び返し」という言葉はどうか。
- これで良いと思う。「そして」が付くと「学び返し」も強調される。
- 「学び返し」は良いと思うが、「学び」の鍵括弧は必要か。
- 強調する意味で、あっても良いと思う。
- 「生涯学習」というと、高齢者等が学習をするという意味であったが、平成18年頃から幼児時期からの子どもの発達や青少年等についても全部入れている。「生涯」を明確にするのであれば、「生まれてから死ぬまで」とした方が分かりやすい。
- 「学習について学ぶ」というのも学習が学びなので、おかしいと思う。
- 「学び」と「学び返し」を強調するならば、重複してしまうが、「学習について」もあって良いと思う。
- 文章がおかしいので、「学習について」は削除する。
- 8行目「現在進行中」も、7行目「提言してきた。」に続けた方が良いと思う。
- 下から5行目「推進し」の後に、句点を入れた方が良い。
- 同行「中で」の後の句点はいらぬ。
- 下から2行目「府中市生涯学習審議会は本答申を」はなくても良い。
- 府中市民と共有するということが分かれば良い。
- 「府中市及び府中市民」で良いのか。「行政」とは言わないか。
- ➔ 生涯学習審議会委員は市職員なので、言い方が難しい。
- 「市と市民」か「市民」だけにするか。府中はいらぬ。
- 「市と市民で共有したい」にする。

7 その他

(1) 次回審議会について

▽第6回生涯学習審議会

日時：12月15日（月）午後2時

会場：府中駅北第2庁舎 4階会議室

以上